



南林間小だより

大和市南林間9-3-2

☎ 275-3141



12月号

11月4日（土）南林間小学校創立50周年式典が行われました。子どもたちが考えたスローガンは『「思いやり」を続けて50年 未来につなぐ 南林小』です。南林小の子どもたちは、「思いやり」という言葉がよく定着しています。やはり学校のシンボルともいえる、思いやりの石の存在は大きいと感じます。学校の中で「私の好きな場所」というテーマで描いた絵も、思いやりの石を描いた児童は少なくはありませんでした。

式典の中でも話しましたが、南林小の先輩方の「思いやり」はどうだったのでしょうか。

昔、学校のそばには、大和市定住促進センターがあり、難民の方々が暮らしていました。難民とは、命をおびやかされ、自分の国にはいられなくなり、違う国に逃げなくてはならなくなった人々のことです。知らない土地、知らない言葉、知らない文化の中で、難民の方たちはどんなに不安で、どんなにつらかったことでしょうか。その定住センターの方たちに先輩方は、手作りのプレゼントや歌などを送り、励まし・喜ばせていました。

現在はどうでしょうか。先日、地域の方が学校に、子どもたちの様子を伝えに来ました。それは、事故に遭い、道路に横たわっている猫を見つけた子どもたちがいました。その子どもたちは、猫が次の事故に遭わないように、交通整理をしていたとのこと。地域の方は、命をたいせつにする子どもたちの姿、優しい姿に、とても心が温かくなったと言って、わざわざ、このことを伝えに来てくれたのです。もちろん、その後、猫は病院へ連れていき、無事だったと言っていました。現在の南林小の子どもたちにも「思いやり」を大切にする心は、今もしっかりと受け継がれています。

思いやりを持つことは、相手の身になって考えることが大切です。困っている人に手を差し伸べることも大切ですし、ミスをしたときに前向きになるような言葉かけや、普段から感謝の気持ちを持って、相手に「ありがとう。」ということも大切です。他にもたくさんの思いやりがあり、子どもたちは、思いやりの心をたくさん持っています。ご家庭でも、子どもたちのちょっとした思いやりを見つけ、褒めて、育ててもらいたいと思います。



（校長 大谷 幸司）